別　紙

研　修　コ　ー　ス　の　概　要

施設名　<u>　綜合病院山口赤十字病院</u>

１．研修コース名　　山口赤十字病院　小児科後期臨床研修コース

診療科名　　　小児科

２．研修コースの種別
「日本赤十字社認定臨床医コース」・「日本赤十字社認定専門医コース」

３．研修期間
３　年間

４．研修コースについて
（１）目的
・　小児疾患全般の知識と臨床能力および技術を習得する。
・　小児科専門医試験の受験資格を得る。

（２）到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）
・ 当院は地域の小児救急拠点病院であるとともに地域周産期センターである。
・ 新生児各分野の頻度の多い疾患については自ら診断、治療できる。
・ 新生児各分野の重症例については指導医のもとで人工呼吸管理などの集中治療の知識、技術を習得する。小児外科疾患など他科、高次医療機関との連携が必要な疾患の対応も経験する。
・ 新生児診察、乳児健診を通じて健常新生児の成長、発達のチェック方法を学ぶ。
予防接種など小児保健の必要事項についても習得する。
・ 代表的な小児救急疾患を自ら診断、治療できる。重症例の対応は、指導医のもと、医療チームの一員として実践する。
・ 一般小児科領域の頻度の多い疾患については自ら診断、治療できる。
・ 心疾患、血液疾患など高次医療機関との連携を要する疾患について、重症

度・緊急度の判定、コンサルテーションの時期、適応などを習得する。

・ 安全な医療を実践できる

・「日本赤十字社における医師の後期研修制度の実施に関する指針」に記載された到達目標を達成できる。

・ 小児科専門医に必要な症例を経験し、専門医資格に足る知識、手技、判断力を習得する。小児科専門医試験受験・資格取得はこの研修の総括的評価のひとつとなる。

（３）赤十字としての特色

・救急医療

地域の救急拠点病院として、入院加療の必要な小児科患者は原則としてすべて受け入れている。年間救急受診患者３０００名、入院患者（時間内・外・新生児を含め）１４００名程度で推移している。

平成２２年度半ばより地域の小児一次救急を、開業医との連携のもと院内併設で実施する予定である。年間５０００人ほどの１次救急患者が予想される。地域医療の連携に貢献するばかりでなく、実地医家からの直接の指導を受けることもできる

・災害医療

当院、支部、県や市が主催する災害救護訓練や演習に参加する。

・国際救援

本社等の主催する国際救護協力要員研修会等には積極的に参加させる。

（４）協力医療施設名

なし

５．研修コース責任者

・職　　第一小児科部長

・氏　名　　大淵　典子

・連絡先　　電話番号　　０８３（９２３）０１１１　　内線（３２４０）

メールアドレス　shounika@c-able.ne.jp

６．診療科の指導体制

（１）医師数　　合計　６　名

常勤　５　名、非常勤　１　名

うち、研修の指導にあたる医師数　４　名

（２）指導責任者

主として研修指導にあたる医師の職・氏名、診療科経験年数

・職　　　　　　第１小児科部長

・氏　名　　　　大淵　典子

・診療科経験年数　　２９　年

・　　　・連絡先　　電話番号　　０８３（９２３）０１１１　内線（３２４０）

メールアドレス　shounika@c-able.ne.jp

７．募集

（１）募集人数　　若干名

（２）募集方法（複数可）

自院の初期研修医から・他赤十字病院の初期研修医から・自院及び他赤十字病院の日本赤十字社認定臨床医コース研修医から・インターネット・医学系雑誌・院内報・大学病院へ直接・他医療機関に直接・その他（具体的に　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

※本研修コースが日本赤十字社認定専門医コースの場合、「自院及び他赤十字病院の日本赤十字社認定臨床医コース研修医から」に〇を付すること。

８．取得可能資格等

学　会　名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本小児科学会	小児科専門医	小児科専門医制度専門医研修施設
日本小児循環器学会	小児循環器専門医（資格取得準備）	日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設群
日本感染症学会	感染症専門医（資格取得準備）	日本感染症学会連携施設

９．研修期間中に経験する症例等について

（１）症例数

外来担当のない医師により全床を回診するので、主治医でない症例の診療にも携わることの出来るシステムをとっている。

主　要　疾　患　名	症　例　数	経験目標症例数	実施施設名※
小児科疾患			
呼吸器感染症	２１００	４５０	
消化器感染症	１０００	２３０	

神経疾患	５００	１００	
循環器疾患	２０	7	
川崎病	３０	8	
腎疾患	２０	7	
内分泌・代謝疾患	３０	8	
その他	５０	１２	
新生児疾患			
超／極低出生体重	４０	8	
低出生体重	３００	５０	
新生児感染症	３０	6	
新生児神経疾患	１０	3	
先天性心疾患	３０	5	
先天性消化器疾患	5	2	
糖尿病合併妊娠	３０	3	
その他	5	1	

※他の医療機関で研修する症例のみ、当該医療機関名を記載すること。

（2）手術又は手技等件数

手術又は手技等	手術又は手技等件数	経験目標件数	実施施設名※
心肺蘇生	２０	4	
気管内挿管	４０	8	
髄液検査	４０	8	
骨髄検査	3	1	
胸腔穿刺	5	1	
高圧浣腸	２０	4	
注腸造影	１０	2	
心エコー	５００	１００	

※他の医療機関で研修する手術又は手技等のみ、当該医療機関名を記載すること。

（3）赤十字医療施設としてのプログラム

ア救急医療について

主要疾患名又は手技等	症例数又は手技等件数	経験目標症例数又は件数	実施施設名※
心肺停止	１０	2	
けいれん	３００	６０	
喘息発作	３５０	７０	
異物誤飲	３０	6	

※他の医療機関で研修を受ける救急医療のみ、当該医療機関名を記載すること。

イ　災害医療について

災害救護訓練へ積極的に参加する

ウ　国際救援について

国際救護協力要員養成研修会などに積極的に参加する

エ　資格認定試験等への対応について

日本小児科学会に入会し、３年間の後期研修終了時に小児科専門医試験の受験資格を得る

オ　その他

地域での赤十字活動へ参加する

１０．本研修コース終了後の進路

・日本赤十字社認定専門医コースへの移行

小児科専門医取得の後さらに研修を進める。

・当院にて以下の資格取得のための研修を受けることができる

小児循環器専門医：日本小児循環器学会修練施設群（九州厚生年金病院との連携）

感染症専門医：日本感染症学会連携研修施設（下関市立中央病院との連携）

小児神経専門医：日本小児神経学会研修関連施設（九州大学病院との連携）

・大学医局での臨床研修、研究

九州大学、山口大学などとの連携が可能である。

・当科スタッフへの採用